

市販園芸用土を利用したオタネニンジンのコンテナ育苗

福島県農業総合センター会津地域研究所

1 部門名

特用作物－薬用ニンジン－育苗

2 担当者名

長浜友佳、中山秀貴、江川孝二、山田真孝

3 要旨

オタネニンジンの育苗（1年生）では、本ぽと同等の土づくり及び土壌消毒、遮光資材の設置が必要であり、省力化が求められている。市販園芸用土（種まき用）を充填した収穫コンテナに播種・栽培することで、1年生苗生産に係る作業時間を大幅に削減することができる。

(1) 収穫コンテナ（外寸縦 53cm×横 37cm×高さ 30cm、土の漏出を防ぐため内壁に畦シートを貼付け）に市販園芸用土（種まき用）を 50L 充填し、播種する。播種後は、遮光をした施設内等で栽培管理する（図 1）。

(2) 本ぽ 10a 分の移植苗 1.5 万本を生産する場合、作業時間は慣行の 44%になると試算された（表 1）。



図 1 コンテナ栽培の様子(左)と生産した移植苗(右)
※本試験で使用した市販園芸用土：レディアース J（ハイポネックスジャパン株式会社）等。
※移植苗（右）の白いバーは 15cm を示す。

表 1 オタネニンジン 1 年生苗生産に係る作業時間 (h) の試算

| 作業 | コンテナ栽培 | 慣行 |
|-------|--------|------|
| ほ場準備 | 0.0 | 7.9 |
| 播種 | 15.0 | 12.0 |
| 遮光幕設置 | 1.9 | 4.7 |
| 除草 | 0.8 | 15.8 |
| | 17.7 | 40.4 |

※本ぽ 10a 分の移植苗 1.5 万本を生産する場合。
※コンテナ栽培：150 コンテナに播種（376 粒/コンテナ、散播）、移植苗 100 本生産。設置遮光施設（0.6a）は既存のパイプハウス骨組を利用。「除草」は防草シート設置時間。
※慣行栽培：育苗床 1.2a。移植可能苗割合 25%で試算。「ほ場準備」は土づくり、耕うん、施肥、うね立て作業。連結式遮光幕。

4 成果を得た課題名

(1) 研究期間 令和元年度～令和 3 年度

(2) 研究課題名 菜食健美ふくしま！地域特産物活用事業

5 主な参考文献・資料

(1) 令和 2 年度参考となる成果 オタネニンジンの経営指標の作成